

特集 物流不動産事業

人流に頼らない新たな領域への挑戦

当社グループは、これまで不動産賃貸業において、駅ビルをはじめとする鉄道事業に関連するプロジェクトを推進することでシナジーを生み出し、成長を遂げてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人の流れが大幅に減少し、鉄道関連の不動産事業にも大きな打撃を受けました。

そのような厳しい状況の中で、物流不動産マーケットはEコマース市場の拡大等に伴い大きく成長している状況にありました。これらを受けて、当社は「人流に頼らない新たな領域への挑戦」として、物流不動産事業へ新規参入いたしました。

当社初の物流不動産開発事業「LOGI STATION 福岡小郡」

2024年3月27日には福岡県小郡市における延床約26,000坪の大規模物流施設の開発計画を発表し、2025年7月の開業を目指して現在事業を推進しています。

この計画に伴い、当社の物流不動産のブランド名称を「LOGI STATION」にしました。この名称には、地域拠点である鉄道駅のように、当社が手掛ける施設が物流における重要な拠点となることを願う意味が込められています。

今後の物流不動産事業

2021年の新規参入以来、4件の物流不動産を取得、2件の開発に着手しています。

この新たな事業領域への挑戦により、当社は従来の鉄道関連の不動産事業に加え、物流不動産市場にも積極的に取り組み、持続的な成長と発展を目指してまいります。

「九州、そして首都圏・関西圏への挑戦」

九州エリアの物流拠点は、2024年問題や半導体関連の需要の高まりを受け、福岡IC付近等のこれまでの集積地から、熊本、北九州など、あらゆる地域へ広がりを見せています。当社も地場企業としてのパイプラインを活かし、時勢やテナント様のニーズに応じて、柔軟に物流施設の取得・開発を実施してまいりました。今後も九州における取得・開発を推進するとともに、採算性を鑑みながら、ノウハウの蓄積、外部パートナーとの関係強化を見据え、首都圏・関西圏への進出も積極的に挑戦してまいります。



事業開発本部開発部物流開発課
主査
渡邊 知子



取得 須恵第一物流センター

取得時期：2023年
竣工：2013年
敷地面積：20,872㎡
延床面積：12,452㎡
※ 他社との準共有



取得 福岡北物流センター

取得時期：2023年
竣工：2023年
敷地面積：12,084㎡
延床面積：11,683㎡



取得 箱崎ふ頭物流施設

取得時期：2023年
竣工：1992年
敷地面積：19,007㎡
延床面積：25,657㎡



取得 新門司物流施設

取得時期：2024年
竣工：1993年/1996年/2001年
敷地面積：15,501㎡
延床面積：14,333㎡



LOGI
STATION
FUKUOKA OGORI

開発 LOGI STATION 福岡小郡

竣工：2025年(予定)
敷地面積：77,031㎡
延床面積：85,870㎡

開発 (仮称) 苅田物流センター

竣工：2025年度末
敷地面積：28,076㎡